

生鮮食品生産衛生管理システム認証養鶏場への指導状況

紀南家畜保健衛生所
○宮本泰成 吉川克郎

【背景と目的】

近年、食中毒や食品偽装等の様々な問題により、消費者の食の安全安心に対する関心が高まってきている。本県においても、生産工程にHACCPの考えを取り入れた「和歌山県生鮮食品生産衛生管理システム認証制度」(以下システム(図1))が創設され、平成25年度、管内養鶏場1戸(図2)が認証を取得した。当所では、当農場に対し、防疫衛生指導、サルモネラ検査並びに環境対策指導等を実施し、主に衛生管理の向上に努めてきた。今回、システム導入前後における衛生管理及び生産性向上の有無を調査し、システム導入の効果を検証し、当農場の経営安定に資することを目的とした。

【方法】

平成24～26年度の死廃率の推移並びに疾病発生状況、疾病抗体検査、サルモネラ汚染状況、平成26、27年度の産卵率、平成24～26年度の純利益の推移、環境対策実施状況について調査した。また、システムの認知度及び理解度等を知るため、従業員5名、消費者200名を対象に、アンケート形式で意識調査を実施した(図3、4)。

【結果】

平成24～26年度の死廃率は、平成24年度にトリサシダニ被害により、大幅な増加が認められたが、認証取得以降は、0.3%前後で推移している(図5)。また、各年度ごとの死廃率の平均を算出し、比較したが差は認められなかった。(図6)。

当農場では、平成24年11月にトリサシダニによる被害により、多大な被害を受けた。殺ダニ剤散布方法の失宜や散布時期の遅れが原因と考えられ、当所において、殺ダニ剤散布プログラムを作成し指導した(図7)。改善指導後は、その他の疾病を含め、発生していない。

疾病抗体検査は、毎月の立入により、HPAI定点モニタリング検査、ND、Mg・Ms検査を実施している。HPAI検査は、全羽陰性で、ND抗体価については、各週齢で十分な抗体価を保持していた。(図8)。

サルモネラ検査は、鶏卵衛生管理体制整備事業(消費・安全対策交付金事業)により、毎年実施している。当農場の汚染状況は、平成22年度の検査で、洗卵選別施設内の床面においてサルモネラが検出されたが、消毒等指導を実施し、以降は検出されていない(図9)。

平成26、27年度の産卵率については、H26.5～9月、H27.5～9月の平均を比較したが、差は認められなかった(図10)。今回、データ不足により、認証取得前後の動向は不明であった。

平成24～26年度の純利益は、システム導入前の平成24年度と比較す

ると、平成25年度は66%、平成26年度は78%増加した(図11)。

当農場では、認証取得により、周辺住民の鶏飼養に対する認識が高まり、ハエによる苦情が増加した。以前より、殺虫剤による対策を実施していたが、今回、加えて、堆肥舎等をビニールシートで目貼りし、ハエの出入りを防止する対策を実施した(図12)。その結果、現在、苦情は減少している。

従業員意識調査では、仕事への意識変化については「向上した」が40%(2/5人)、「変わらない」が60%(3/5人)、衛生管理の向上については、向上したと「思う」が60%(3/5人)、「思わない」が40%(2/5人)、生産性の向上については、向上したと「思う」が40%(2/5人)、「思わない」が60%(3/5人)、業務量の変化については「多くなった」が20%(1/5人)、「変わらない」が80%(4/5人)、システムの理解度については「少ししか理解できていない」が80%(4/5人)と大半を占め、また制度の継続については、続けていきたいが75%(3/4人)と大半を占めた(図13)。

消費者意識調査では、直売所にてアンケートに答えた男女の割合は男性15.5%(31/200人)、女性84.5%(169/200人)、年代は60代39.5%、70代27%、50代19.5%と女性、高齢層が大半を占め、また直売所での購入頻度については、月に「2回程度」が41.5%、「不定期」が35%と一定の傾向は認められなかった(図14)。消費者が卵に求めるものは「おいしさ」、「鮮度の良さ」がともに高く、当農場での購入動機と概ね一致していた(図15)。システムの認知度については、「内容まで知っている」と答えた人は、わずか4.1%しかおらず、また当農場が認証取得農場であることも、「知らない」が68.4%と大半を占める結果であった(図16)。

【考察】

当所による防疫衛生指導、農場のシステム運営により認証取得後の疾病の発生はなく、純利益についても、トリサシダニ対策ができていること、生産効率の上昇等で増加した。また苦情に対する対応、対策実施意識の向上も認められた。以上のことから、今回、衛生管理、生産性ともに向上したと考えられた。

従業員意識調査より、システムの理解度は低く、約半数が仕事への意識変化がない、衛生管理、生産性向上を感じられなかったという結果であった。これら改善のため教育、指導等が必要と考え、従業員を対象にHACCP等についての研修を実施した。その結果、その後の農場からの聞き取りから、システムに対する理解度の向上が認められたと思われる。

消費者意識調査より、卵に求めるものと当農場での購入動機は概ね一致し、消費者ニーズに応えられていたが、システムの認知度は低く、PR等を実施していく必要があると考えられた。

今後も適切な指導の実施により、当農場の経営安定の一助とし、また

今回得られたデータをもとに、他農場へのシステム普及に努めていきたい。